

2023 年度法人事業報告

1. 理事会

- 第1回 2023年6月12日
- 第2回 2023年6月30日
- 第3回 2023年9月28日
- 第4回 2023年10月17日
- 第5回 2024年3月22日

2. 評議員会

- 第1回 2023年6月30日
- 第2回 2023年7月28日
- 第3回 2024年1月14日

3. 花工房福祉会特別調査委員会

- 2023年9月27日 花工房福祉会特別調査委員会報告書受領
- 2023年10月16日 花工房福祉会特別調査委員会報告書説明会

4. 花工房福祉会労働組合との団体交渉

- 2024年1月24日

5. 虐待防止研修

- 2023年12月15日 虐待防止委員会（川中島事業所）
- 2024年1月10日 川中島事業所の職員全員対象の虐待防止研修
- 2024年1月31日 炭房ゆるくらの職員全員対象の虐待防止研修
- 2024年2月7日 わくワークの職員全員対象の虐待防止研修

1. 事業方針の成果

障がいのある人が、元気に通って来れる「居場所」としての事業所の役割と、いくつかの「活動の場」を準備し、「やりがい」を持って日々の活動を進められる事業所運営を目指してやってきました。

就労継続支援 B 型は定員にまだ空きがあり、利用者確保のために関係機関への情報提供・実習・体験等を積極的に進める等して安定的な収入確保に努めましたが、実習だけに終わってしまい、事業所利用にはつながりませんでした。長野市内でも就労継続支援 B 型の事業所が多数開設され、利用者から選ばれる事業運営が求められています。また、地域に支えられた事業所であることも忘れずに、事業を通じた関わりを積極的に行う点については、夢まつりも数年ぶりに開催するなど順調に連携が広がり障がい者理解に繋げていくことができました。

2. 利用者・職員数（2024年3月末日現在）

[利用者]

生活介護サービス 定員 20 名 現員 25 名

就労移行支援サービス 定員 6 名 現員 0 名

就労継続 B 型サービス 定員 34 名 現員 39 名

[職員]

44 名（常勤職員 11 名・嘱託職員 9 名・パート職員 24 名）

3. 事業内容と成果

(1) 自主製品については、新商品の発売や販売場所の開拓を実施し、新型コロナも 5 類に移行したことから、数年ぶりに夢まつりを開催し、休日のイベント販売も増加するなど売り上げアップに結び付けました。

(2) 近年、全国的に広まっている、農福連携・〇福連携事業で、障がい者の持つ労働力を地域に発信し、地域のニーズに応える施設外就労を増やし、年間を通してできるようにしてきました。

2023 年度施設外就労の件数は横ばいでしたが、内職作業で新たな連携先が増え、より一層利用者の活躍の場が広がっています。

(3) 相談の内容が利用者だけではなく、家族支援にまで広がるケースが増え、関係機関と連携しながらの支援の必要性が増してきました。日中の仕事の場の提供から生活の場の支援の必要性が今後増加することが見込まれます。

(4) 工賃支給

| | | |
|----------|--------------|--------|
| 売り上げ総額 | 40,875,334 円 | |
| 工賃支払総額 | 18,226,600 円 | |
| 平均工賃額 | 23,732 円 | (64 名) |
| 就労継続 B 型 | 43,273 円 | (39 名) |

I エコーンファミリー・生活介護事業報告 (案)

1. 事業方針の成果

利用者が自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、常時介護を要する利用者に対し、排せつまたは食事の介助、創作的活動または生産活動の機会の提供、その他の便宜を はかり個別支援計画に基づいた適切な支援を行ってきました。

2. 利用者・職員数 (2024 年 3 月末日現在)

[利用者]

定員 20 名

現員 25 名 (区分 3 1 名 区分 4 10 名 区分 5 11 名 区分 6 3

名)

[職員]

サービス管理責任者 1 名

生活支援員 14 名

看護師 2 名

3. 事業内容と成果

(1) 日中活動支援は利用者の安全面を第一に考えながら、各事業を行いました。コロナも 5 類に移行したことで、レクリエーションや水泳教室・音楽療法・ダンス教室等も前年より実施回数が増加しました。資源回収や販売、畑作業なども利用者の体調をみながら実施しました。

(2) 健康管理は、定期健診 (年 1 回) を 5 月 22・23 日に実施し、各種疾患の早期発見に努めました。また日々の生活の中でも、個々の体調に合わせ支援を行いました。

(3) 食事提供加算を活用して、一富士フードサービスに委託し安定した食事提供が出来るように努めました。また、衛生管理も徹底し食中毒の防止を図りました。

食事に対する配慮として、一口大にカットするなど個々の状況に合わせ提供

するよう努めました。

- (4) 権利擁護・虐待防止委員会を設置し、委員会内で虐待防止について研修や情報交換を行い、グループ会で情報共有を行いました。
- (5) 苦情解決は、利用者及び保護者からは重大なものではなく、1年を無事終えることができました。
- (6) 防災・安全対策では火災・地震・水害・土砂災害等の緊急時に対応できるよう、職員の配備体制及び防災設備の点検整備に万全を期するとともに、避難訓練（11月29日水害、1月17日火災、3月27日火災）を実施しました。
- (7) 研修は、職員がキャリアアップできるよう外部研修を中心に参加し、月に一回の委員会やグループ会等で研修したことを報告し、共通理解を図りました。
- (8) 保護者との連携は、ノート連絡を中心に必要があれば電話連絡をするなど相互理解に努める工夫をしました。
- (9) 恒例のハーモニー「夢」まつりはハーモニー桃の郷との共催は断念しましたが、川中島中学校はじめ地域の方々にもご協力いただき、初の単独開催として実施しました。
- (10) 情報提供はホームページでの情報提供に加え、年3回「花工房福祉会だより」を作成し、事業所の活動を紹介しました。

(11) 工賃支給

日給 600 円を基本とし、出勤日数や利用者の心身の状況に応じて支給しました。

II エコーンファミリー・生活介護（Aグループ）事業報告（案）

1. 事業方針の成果

- (1) 保護者と連携をとりながら、利用者の体調や特性に留意し、個々の意思を尊重した生活習慣の支援を行い、日々の生活の中において自分でできることを増やすよう支援しました。

(2)安全面を第一に考えながら、体を動かし健康の維持・向上を図りました。

(3) 様々な作業を行い、利用者の興味関心を増やし、できることを増やしました。

(4) 施設内外での様々なレクリエーションを通して楽しい体験をすることができました。

(5) 夢まつりで地域のみなさん、川中島中学校との交流を行いました。

2. 利用者・職員数 2024年3月末日現在)

利用者数 15名 (生活介護 14名)

職員数 9名 (生活支援員7名/看護師2名)

3. 事業内容と成果

(1) 食事、更衣、排泄等の支援を適切にすることで利用者に大きなケガや事故も起こることなく過ごすことができました。

(2) ・水泳、ダンス、ウォーキング、徒歩での配達など積極的に外活動を行い健康の維持・向上に努めました。

(3) 自動車での配達、徒歩やリヤカーによる作業、牛乳パックの分別作業などを通してできることが増やせるよう工夫してきました。

(4) 各種の活動

①施設内活動：音楽療法 (17回)

ダンス教室 (10回)

工作レク (鯉のぼり、紫陽花、七夕、クリスマスなど)

調理レク (ポテトサラダ、ニラせんべい、ゼリーなど)

音楽レク (季節の歌・曲、誕生日会など)

②施設外活動：水泳教室 (37回)

恐竜公園 (4月)、一本木公園 (5月)、県立美術館 (6月)

戸隠 (7月)、安曇野 (8月) サンマリーン (10月)、

佐久こども未来館 (11月)、パン食い競争 (12月)、

善光寺 (1月)、須坂 (2月)、上越水族館 (3月)

(5) 川中島中学校で牛乳パック回収を行っていただいた。

4. 売上結果

総売り上げ目標：1,500,000円

実績：2,306,361円

(1) 小物部門（小物、くじ引き、カス、糸コン、スープ等の売上分）

目標：1,100,000円 実績：1,851,504円

(2) 受託部門（ワゴンカフェコーヒー代、資源回収、ロフトロール、自動販売機手数料、他）

目標：400,000円 実績：454,857円

Ⅲ エコーンファミリー・生活Bグループ事業報告（案）

1. 事業方針の成果

- (1) 健康管理、食事、更衣、排泄等生活全般支援は利用者個々の状況に応じて支援を行いました。
- (2) 移動販売や豆腐配達は曜日ごとに方面を変えて行いました。販売先や豆腐定期購入者の減少はあったものの、新規開拓をしながら売上を伸ばしました。畑作業は、地域の方にも手伝ってもらい、大豆や野菜の生育をする中で障がい者理解の場にもなりました。
- (3) 作業配置は、利用者一人ひとりの能力やその日の体調に応じて行いました。月に1回は外出レク等も行い、3月はアリーナバスを借りて新潟へ行き、余暇活動を楽しみました。
- (4) 日中活動については、グループ会議でアイデアや改善点を出し合い、充実した活動が行えるように努めました。
- (5) グループ会議を通じて情報共有の場を持ち、職員同士が相談しやすい雰囲気づくりに努め、職員が安心して支援が出来る体制づくりを心がけました。

2. 利用者・職員数（令和6年3月末日現在）

[職員]

10名（常勤職員2名・嘱託職員2名・パート職員6名）

[利用者]

11名（区分5・6名 区分4・4名 区分3・1名）

3. 事業内容と成果

- (1) 生活支援全般については、利用者個人の状況に応じて必要な支援を行

- (1) 施設外就労、職場実習を中心に、企業で「働く」機会を多く提供し、就労支援を推進する。
- (2) 就労に向け意欲を持って作業、必要な訓練に取り組めるよう、個別支援計画に沿って利用者一人ひとりの特性、強みが活かされる作業、必要な訓練、作業工程の工夫を図り支援し同時に保護者に対しても就労が適性であることを伝え理解をいただく努力を積み重ねてきました。

2. 利用者・職員数（令和6年3月末日現在）

利用者：定員 6名 現員 0名

[職員]

サービス管理責任者 1名

就労支援員 1名

職業指導員 1名

生活支援員 1名

3. 事業内容と成果

- (1) 就労移行利用者0名の為、各種学校・機関に声かけをし利用確保に努めました。就職者のフォローアップ支援を適時行いました。また就労アセスメントは随時受け入れし実施しました。(6人)
- (2) 定期健康診断（年1回）5月22日・23日に実施し各種疾患の早期発見に努めました。
- (3) 食事提供加算を活用して、一富士フードサービスに委託し安定した食事提供ができるように努めました。また衛生管理も徹底し食中毒の防止を図りました。
- (4) 就職者の権利擁護・虐待防止の観点も大事に勤務先での賃金交渉、また気遣い、コミュニケーションの取りづらさの相談にのり本人、企業側と話し合いを行いました。
- (5) 利用者・家族からの就職に対する要望があり相談員、サビ管、担当グループ内において共有し、本人の意向に沿うように適切な解決を図りました。
- (6) 防災・安全対策では火災・地震・水害・土砂災害等の緊急時に対応できるよう、職員の配備体制及び防災設備の点検整備に万全を期するとともに、避難訓練（11月29日水害、1月17日火災、3月27日火災）を実施

しました。

- (7) 研修の充実においては常に職員自身がキャリアアップを目指し資質向上を図るために、事業所内外の研修には計画的かつ積極的に参加した。また職員が同じ目標を持って意欲的に業務に従事できるよう研修内容の共有をはかってきました。
- (8) 家族との連携は日常的に蜜にして、相互理解とよりよい支援に努め、地域行事や地域での活動に積極的に参加する(コロナの影響から通年に比べ減少)とともに、ボランティア・体験実習等を継続的に受け入れ、地域住民との相互理解、相互交流を進めました。
- (9) 情報提供は毎月ホームページを更新し、年3回「花工房福祉会だより」を発行することで、事業所の活動を家族、地域住民にも理解していただきました。

4. 個別支援計画に基づき、利用者一人ひとりの特性、強みが活かせる作業への配置、作業工程が分かりやすくなるように手順書の見える化をするなどの支援を行いました。また、それぞれの課題も明確にして本人、家族と共有し課題克服できるよう支援を行いました。

- (1) 個別支援計画・個別支援計画モニタリング年2回作成・家族との支援会議年1回、個別面談随時
- (2) 就労アセスメント：6件
- (3) 就労学習会：週1回(水曜日午後)学習(就労継続B型利用の希望者も参加)
- (4) 就職面接：2社(就労継続B型利用者)
- (5) 就職者のフォローアップ支援：2名 適時

5. 実績

就職者 0名

V エコーンファミリー就労継続B型 はやぶさグループ 事業報告(案)

1. 事業方針と成果

- (1) 施設の外に出て作業をする事により、社会性を向上させ、さらに高工賃を稼ぐ方向で力を入れてきました。
- (2) 与えられた作業を正確に行い、委託先から信頼される存在になりました。
- (3) お客様へのあいさつを忘れずに行い、コミュニケーションを上手にとれるようにしました。
- (4) 社会性や作業の質を向上させながら、一般就労を目指しました。

2. 利用者・職員数（令和5年3月末日現在）

利用者 15名（継続B型15名）

職員数 6名（常勤1名、嘱託2名、パート3名）

3. 事業内容と成果

- (1) 施設の外の作業にて、農家との連携により、コミュニケーション能力が向上して高工賃を得られました。
- (2) 正確に作業をすることで、委託先の作業も増えました。
- (3) お客様一人一人にあいさつをきちんと行い、コミュニケーションを大事にしました。
- (4) 勉強会等で、面接技術やあいさつのマナーについて、社会性の向上、自立生活に向けて学ぶことができ、1人就職(平安堂更埴店)に結びつきました。

4. 売上結果

- (1) 施設外就労（農作業手伝い・そうじ・草取り等）

目標：4,500,000円 実績 2,785,134円

- (2) 受託作業（箱折り・シール貼り・PC解体等）

目標：2,800,000円 実績 4,311,705円

VI エコーンファミリー就労継続支援B型ファイルグループ事業報告（案）

1. 事業方針の成果

- (1) 利用者各人の個別支援計画に基づく作業の場を用意し、その特性が充分発揮されるよう支援を行いました。
- (2) 将来地域で自立した生活ができるような十分な工賃が支払えるよう、各人の日々の売上を正確に把握し、売上目標を達成ができました。
- (3) 地域のみなさんの障がい者理解を進めていく上でも、地域の活動には積極的に参加し、地域のみなさんに支えられながら、仕事をしているという感謝の気持ちを持ちながら毎日元気よく仕事をする。利用者各人に合わせた作業配置、気持ちよく仕事ができるよう適切な配慮をしながら配置を考えました。

2. 利用者・職員数（2024年3月末日現在）

利用者 15名（就労継続B型 15名）
職員数 8名（・常勤3名・パート5名）

3. 事業内容と成果

- (1) ハウス作業（花生産・管理、植栽・草取り、フラワーギフト、鉢花作り）
ハウス作業では春にベコニア、ペチュニア、マリーゴールド、秋にはパンジーとビオラを育成。県庁プランターや企業（コヤマ・トヨタ・アクセルなど）の花壇に植栽を行いました。

フラワーギフトは夏の盆花等例年並みに売り上げることができました。

- (2) 販売・配達（県庁ワゴンカフェ・販売箇所=20箇所（1ヶ月）

- (3) 下請け作業（ノバフォーム・佐川急便内職作業・まかせて長野ポスティング作業、ほっとパルポスティング作業等・八十二銀行のカレンダー作業）は、昨年に引き続き封入作業を継続でき、労金内職（夏、冬）封入作業を単発的に行いました。

まかせて長野ポスティングは継続して三か所ポスティング作業を行い、月一回のほっとパルのポスティング作業も継続して行いました。

- (4) 清掃作業（桃の郷・長野駅喫煙所）では、清掃部門では月に20回ほどの喫煙所清掃は安定した作業を行うことができ、利用者も手慣れた様子で作業に取り組むことができ、桃の郷の清掃も引き続き行いました。
- (5) 農福連携施設外就労（果樹園での作業、農業体験、畑の除草作業等）では、今年度も農福連携の施設外就労作業を行いました。室内での作業が苦手な利用者には活躍できる場所ができ、収益を得ることができました。

又、地域からの除草作業の依頼が数件あり、作業を行いました。
タキイチきのご園にて週2～3回キノコの紙巻き作業も継続して行いました。

4. 売上結果

| | | |
|-----------|-----------------|-----------------|
| ・受託、清掃 部門 | 目標： 3,300,000 円 | 実績： 3,276,967 円 |
| ・花 部門 | 目標： 2,700,000 円 | 実績： 3,004,078 円 |

計 6,281,045 円

Ⅶ エコーンファミリーパングループ事業報告（案）

1. 事業方針の成果

- (1) お客様に喜んでいただけるパン・スイーツの製造、開発、技術の向上に努めました。
- (2) 原価、作業効率、在庫管理を意識し、作業環境の改善に努めました。
- (3) 大豆チップスはホームページを見たお客様から注文を頂きました。
製造工程を改善し、効率化を促進することができました。
- (4) 受託業務は、納入先と連絡を密に取り合い、計画的・安定的に納品を行うことができました。
- (5) SNS 等を利用した商品 PR はホームページへの掲載を継続しました。
- (6) 食品衛生管理に関する基礎知識を工房内に立ち入る全ての人で周知・徹底し、お客様に安心・安全な商品を提供するよう努めました。
- (7) パン作業を通して働くことのやりがいや喜びを共有できる環境づくりに努めました。

2. 事業概要の成果

- (1) 利用者・職員数（令和6年3月末日現在）

利用者 6名（継続B型 6名）

職員数 6名（常勤3名（うち育児休暇中1名）・嘱託2名・パート2名）

(2) 提供するサービスの成果

①仕込み表を基に形・計量・製造数などに注意し、協力して行う事ができました。季節毎の新しいパンの成型を担当してもらえるよう工夫し、取り組みました。

②販売へ参加できるよう工夫し、それぞれが担当したパンやスイーツを購入して頂くお客様に確認することができました。あいさつや計算、商品の受け渡し等、職員と協力して取り組みました。

③受託業務は製造手順通り行い、遅延なく行えました。

④作業に入る前の体調・身支度チェックを継続し、衛生管理に努めました。

⑤形や数、正確さなど、それぞれが課題とする部分で、どうすれば取り組みやすくなるかを職員でアイデアを出し合い、実際にトライしてもらいながら工夫することができました。

3. 売上成果

目標総額 27,000,000 円 → 売上実績 29,408,124 円

(1) パン・スイーツ 目標 24,500,000 円 実績 25,728,890 円

(2) 大豆チップス 目標 500,000 円 実績 80,641 円

(3) 受託業務 目標 2,000,000 円 実績 3,598,593 円

2023 年度朝陽事業所事業報告（案）

1. 重点目標

(1) 事業内容の重点

地域に根付いたエコーンファミリー朝陽事業所・おまめ喫茶そいていとなるよう、地域のみなさんとの関わりを大切にし、集客に努めました。

(2) 利用者支援に関わる重点

個別支援計画を基に、集団生活や仕事をする上で必要なマナーや、社会性の向上に努め、販売先での接客や地域のみなさん、仲間との関わり等を通して支援を行いました。

2. 事業内容と成果

(1) 豆富の販売・配達、新規開拓

コロナ感染症の5類移行に伴い、販売は訪問自粛等無くスムーズに行えました。

豆富配達は、高齢化等で既存の配達先の縮小があったが、新規開拓もあり、売り上げ向上につながりました。

(2) 喫茶営業

コロナ感染対策を継続し、店舗内の消毒や換気等に努めました。

定期的な貸し切り利用の他に、食事会のPRを行い誘客に努めました。

『夢まつり』の時には、スイーツ、弁当を作り好評でした。弁当の注文・配達は、新規開拓や追加でスイーツを付けられるようにして、好評を得て注文数も増えました。

県庁ピロティで、弁当販売を継続し、弁当にはリピーター客が付き好評でした。

(3) 受託作業

新規作業として(株)ズークより菓子包装作業や、(株)平成農園から大豆選別作業を請け負えました。

単発作業としてノバフォームや、きのこシート拭きも行いました。

月1回のポストイング（無料冊子ほっとパル）は、月2回に増え毎月、期限内に事故なく行えました。

3. 利用者・職員数

・利用者数 4名（内 就労継続支援B型3名、生活介護1名）

・職員数 4名（内 常勤1名、嘱託1名、パート2名）

| | | | |
|-----------------|-------|------|------------|
| 4. 売上目標 | 402万円 | 売上実績 | 4,275,763円 |
| (1) 豆腐（麺類含む） | 300万円 | | 2,890,850円 |
| (2) 喫茶営業 | 69万円 | | 621,070円 |
| (3) 仕出し（弁当製造含む） | 27万円 | | 671,470円 |
| (4) ポスティング他 受託 | 6万円 | | 92,373円 |

2023年度就労継続支援B型事業所わくワーク事業報告（案）

1. 事業方針の成果

- (1) 事業内容での成果として、社会に必要とされ、役に立っていると実感できることを前提としながら、所得の保障が望める事業を実施し、高い工賃の支払を目標として行いました。
- (2) 利用者支援に関わる成果として、利用者各人の「その人らしさ」を踏まえながら個々のニーズを的確に汲み取り、サービス等利用計画と連携をしながら、個別支援計画に沿った支援を行ない、「その人らしく」生きることの支援を行いました。

2. 利用者・職員数（令和6年3月末日現在）

- (1) 利用者：定員20名 現員21名
- (2) 職員：9名
 - 所長：1名
 - サービス管理責任者：1名
 - 生活支援員：1名
 - 職業指導員：4名
 - 目標工賃達成指導員：1名
 - 事務担当：1名

3. 事業内容と成果

- (1) 利用者が「必要とされている、役に立っている」と実感が持てるように、「(有)藤きのこ」「ころぼっくる」等の地域産業に寄り添った事業を積極的に取り入れました。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行する中で、フルーツセンターでりんごの箱・袋詰めとりんごの段ボール作り・出荷作業、個人宅除草作業、県合同庁舎駐車場の除草作業、保健所周囲の除草作業、長野県立大学緑化管理等、地域に出ていく機会も多くなりました。

新たな菓子箱の受注により、室内での作業の充実を図りました。

課題であった冬期間の売上げの確保しながら、年間を通じて安定した事業を実施することで安定して売上げを確保することができました。

- (2) 農福連携事業を積極的に行ない、農業を通じて利用者が社会参加することや、地域貢献などによる共生型社会の実現に向けて取組みをしました。

「フルプロ農園」、「芋井の林農園」、「長野興農」、「ベリーファーム」「フルーツセンター」等で、りんごの摘果、りんごの出荷準備、りんごの剪定枝の片

付け、トマトの収穫と葉掻き作業等を行いました。

(3) 利用者が、その人らしく元気に通い、働くことができる“居場所”として、サービス提供の充実を図り、利用者各人の進行度に応じた技術支援や、スムーズな作業遂行が実現できるように支援をしました。

加えて、業務に対する責任感およびモチベーションの向上や働きがいを実現するため、利用者の“やりたい”と“できる”を尊重し、作業配置へとつなげました。

また、仕事以外にも、1日レクリエーションや休日活動を定期的実施し、日々の生活が豊かになるような取り組みを行いました。

4. 売上結果

| | | |
|-----------|------------------|------------------|
| (1) 施設外就労 | 目標： 5,000,000 円 | 実績： 6,084,213 円 |
| (2) 受託作業 | 目標： 3,500,000 円 | 実績： 2,983,783 円 |
| (3) 販売 | 目標： 1,500,000 円 | 実績： 1,264,074 円 |
| (4) 売上総額 | 目標： 10,000,000 円 | 実績： 10,332,070 円 |
| (5) 平均工賃額 | 42,122 円 | |

2023 年度就労継続支援 B 型事業所炭房ゆるくら事業報告（案）

1. 事業方針の成果

(1) 事業方針

炭房ゆるくらは、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、利用者に対して就労の場を提供するとともに、生産活動、施設外就労、その他の活動の場を通じて、その知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の便宜を適切かつ効果的に行い、工賃の水準を高めるよう努めています。

(2) 成果

- ①生産活動（薪炭生産、農業生産）、施設外就労（エムウエーブ、タキイチ、角藤）などその時期に合った就労の場を提供しながら、利用者の個別支援、チーム支援を通じて様々な効果的な効果（ストレングスの強化、課題の解消、作業のスキルの向上）ができ、成果につながりました。また、炭房ゆるくらの林福連携について、新潟県域の知障協の大会の講演会等で広報し、見学者もあり炭焼き活動にも注力できました。
- ②利用者工賃の向上については、2022 年度の月平均工賃 35,182 円に対して、2023 年度月平均工賃 38,861 円（+3,679 円）という成果を上げることができました。

2. 利用者・職員数（令和 5 年 3 月末日現在）

(1) 利用者数 18 名

(2) 職員数 8 名

所長 1 名

サービス管理責任者 1 名

生活支援員 2 名

職業指導員 2 名

目標工賃達成指導員 1 名

事務職員 1 名

3. 事業内容と成果

- (1) 薪炭事業の拡大により、前年から 13 万円の収入アップすることができ、安定した収入は確保できました。
- (2) 小型ユンボの導入により、炭焼き小屋周辺の環境美化、作業の効率化ができました。
- また、ガーデン工事の仕事の受注ができたこと、除雪や山の整

備の効率化など大きな成果になりました。

- (3) ガーデンクリエイト部門は、企業、個人宅の庭木の剪定、新規ヤマキ工業(株)の53万円、藤澤邸20万円等で収入アップになりました。
- (4) 施設外就労各企業内作業の効率を高め、収入向上に努めましたが、角藤2,327,350円(9万円アップ)などあったが、コカ・コーラ作業が6月で終了し、トータルでは100万円の収入減の結果となりました。

4. 売り上げ結果

2023年度就労売上目標 13,355,000円

2023年度就労売上結果 12,228,419円 (-1,126,581円)

2023年度グループホーム「共同生活援助」事業報告(案)

1. 事業方針の成果

利用者の意志と人権を尊重し、関係法令を遵守するとともに、出来る限り居宅に近い環境の中で利用者の障害特性を理解した上で、心身の状況や意向を踏まえた食事、排泄、入浴等の生活全般の支援を関係職員と連携をしながら行いました。

2. 利用者・職員数（令和6年3月末日現在）

<利用者>

| | さんふれんず | さくら |
|----|--------|-------|
| 定員 | 5名 | 6名 |
| 現員 | 男性 5名 | 女性 6名 |

<職員>

| 職種 | 員数 | 常勤 | | 非常勤 | |
|-----------|----|----|----|-----|----|
| | | 専従 | 兼務 | 専従 | 兼務 |
| 管理者 | 1 | | 1 | | |
| サービス管理責任者 | 1 | | 1 | | |
| 生活支援員 | 7 | 2 | | 5 | |
| 世話人 | 8 | 2 | | 6 | |
| 事務員 | 1 | | 1 | | |

3. 事業内容と成果

(1) 各種生活援助サービスの提供、共同生活介護サービスの提供

(2) 体制 月～日曜（GW・お盆・年末年始休暇有） 24時間（夜間支援体制）
年間利用回数（一人平均）さんふれんず322回／さくら228回

(3) 連絡会議は、実施回数 年1回程度（世話人・管理者・サービス管理責任者）

内容：利用者の様子・支援について・その他業務についての連絡・確認
必要に応じて行いました。（連絡会は朝陽事業所のカフェで昼食を
食べながら行いました）

- (4) 研修は、くらし部会（長野市ふくしネット）や地域支援部会（知障協）が開催する、管理者や世話人等を対象とする研修会へ参加しました。
- (5) 余暇活動・地域との連携は、エコーンファミリーでの休日活動、レクリエーション、地区の美化活動、ゴミ集積所の当番、誕生日会（利用者の誕生日に）、クリスマス会など
- (6) 健康診断は、5月22日（月）・23日（火）（エコーンファミリーにて実施しました）
- (7) 避難訓練は3月28日（木）さくら 3月29日（金）さんふれんずで実施しました。

2023 年度短期入所事業ゆうゆう事業報告（案）

1. 事業方針の成果

(1) 在宅等において介護者の疾病やその他の理由により、短期間の入所を必要とする障がいのある人に対し、入浴、排泄、又は食事等の介護や日常生活上の支援を提供し、障がいのある人等及び家族の福祉の向上を図ってまいりました。

(2) 今後グループホームを利用しようと考えている利用者の宿泊体験の場として施設を活用しました。

2. 利用者・職員数（令和6年 3月末現在）

| | | | |
|------|--------|----------|----------|
| ・利用者 | 40名 | （内 男性28名 | 女性12名） |
| | | 法人利用者35名 | 法人外利用者5名 |
| ・職員数 | 管理者（兼） | 1名 | |
| | 生活支援員 | 2名 | |

3. 事業内容と成果

(1) 生活支援

①入浴・排泄 利用者の状況に応じて介助や見守りを実施。

②起床・就床 起床時間（6：00～7：00）就床時間（20：00～22：00）利用者本人の意思を尊重し、援助しました。

③更衣は、利用者の実態に応じて介助をしました。

(2) 健康管理

①食事は、利用者の身体状況や嗜好を配慮し、栄養バランスを考えた手作りの食事を提供しました。

(3) 家族との連携については、急な要件が生じた場合は、ご家庭へ直接連絡を行いました。

(4) 感染対策

①新型コロナウイルス感染対策として来所時、起床時の検温、消毒、手洗いうがいの徹底をしました。

②来所時検温で 37℃を計測した場合は、事業所利用を中止していただきました。

(5) 月別利用者数（年間利用者数 延べ 341名 利用回数 721回）

| | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 4月 | 31名 | 5月 | 30名 | 6月 | 30名 |
| 7月 | 27名 | 8月 | 31名 | 9月 | 32名 |
| 10月 | 33名 | 11月 | 25名 | 12月 | 28名 |
| 1月 | 26名 | 2月 | 25名 | 3月 | 23名 |

2023 年度相談支援事業事業報告（案）

1. 事業方針の成果

- (1) 障がいのある人が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう行政機関、関係機関との緊密な連携を図りつつ、総合的に障害者相談支援が行われるよう配慮しました。
- (2) 障がいのある人の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、障がいのある人の選択に基づき、適切な障害福祉サービス等が、多様な事業所から、総合的かつ効率的に提供されるように配慮しました。
- (3) 障がいのある人の意思及び人格を尊重し、常に当該障がい者の立場に立って、支給決定障がい者等に提供される障害福祉サービス等が特定の種類又は特定の障害福祉サービス事業者に不当に偏することのないよう、公正中立に行いました。
- (4) 市町村、障害福祉サービス事業者等との連携を図ることができました。
地域における必要な社会資源の改善、開発については、不十分であるので今後、力を入れていきます。

| | |
|----------------------|-----|
| 2. 利用者数：エコーンファミリー利用者 | 78名 |
| 外部利用者 | 12名 |
| 総数 | 90名 |

職員数：相談支援専門員 1名

3. 事業内容と成果

- (1) 相談支援業務の充実
障がいのある人が地域において自立した日常生活を営むことができるよう日頃からコミュニケーションをしっかりとることを心かけました。
また、行政機関、関係機関との連携も密にし、障がいのある人や保護者のニーズに応えられるように、共に考え、相談者にとって有益な情報提供ができるように努めました。
- (2) サービス等利用計画の作成及びモニタリングの実施
アセスメントからサービス等利用計画作成、モニタリングの一連の支援を ていねいに行ない、本人主体のサービス提供ができるように努めました。
特に、本人の障がい特性でできないのか、経験不足のためにできないのか、

本人の持っている能力を見極めるため、関係者と連携していねいにアセスメントをとるよう努めました。

必要に応じて、計画の変更など柔軟に対応しました。

保護者の高齢化に伴い、家族の急な入院や体調不良等により短期入所の利用を増やさなければならない等、緊急の対応をするケースが増えてきています。また、親なきあとのことを不安に思い将来に備えての相談を受けることも年々、増えていきます。

定期的な受給者証更新のためのサービス等利用計画の作成及びモニタリング業務と並行して、緊急の対応を相談支援専門員が1名で対応することは困難でした。

| | |
|---------------|------|
| ①サービス等利用計画の作成 | 82件 |
| ②モニタリングの実施 | 134件 |

(3) 相談支援専門員としての資質の向上

長野市の相談員連絡会に今年度は執行部として定期的に参加し、市のケースワーカーや他事業所の相談員と情報交換をし、より良い相談支援ができるように努めました。

(4) 関係機関との連携

長期的に欠席をしている障がいのある人や保護者に対して、サービス管理責任者や担当グループ職員と連携し、定期的に自宅訪問を行ないサービス利用につながるよう努めました。

保護者の高齢化に伴い、障がいのある人本人だけでなくご家族も支援する必要があるケースが年々、増えてきていて、保護者のケアマネージャーや医療機関等の関係者と連携し、保護者にとってより良い生活ができるよう努めました。